日刊工業新聞

年月日	18	10	03	ページ	11	NO.	

中高生受け入れ〝人づくり〟

日立システムズ 今年度700人

IT業務の魅力紹介

社会貢献と社員教育 相乗効果

日立システムズが中学生や高校生の企業訪問を積極的に受け入れている。2008年度に始めた取り組みを12年度から本格化し、17年度までに累計67校856人を受け入れた。18年度はさらにペースを上げ、約半年間ですでに34校328人の中高生が同社を訪問している。18年度末までに約60校600―700人を受け入れる見込みだ。同活動の背景には、社員育成と次世代を担う学生にITへの興味や関心を持ってもらいたいという狙いがある。

（川口拓洋）

中高生の企業訪問プログラムは、日立システムズの社会貢献活動の一環。1校当たり1回90分―120分で企業紹介やオフィス見学、製品体験などを行う。9月末には、徳島県立脇町高校（徳島県美馬市）の2年生19人が同社を訪問した。脇町高校の武岡徹先生は「東京で事業を行う企業を肌で感じてほしい。生徒が社会と今後どのように関わっていくのかを考えるきっかけになってほしい」と訪問目的を話す。

企業紹介では、日立グループの全体像や日立システムズの位置付けなどを説明。日々の暮らしに密着したITやITを支える仕組みも分かりやすく解説する。脇町高校の生徒らに対し、同社の研究開発本部研究開発センタの小沢達也さんは自身手がけている音声テキスト化サービスを実践しながら「仕事は自分の日々の仕事を紹介。自身の成長につながる。業務は一人ではなく仲間と行う。コミュニケーション能力が重要」と力を込めた。

同社が学生の企業訪問を受け入れる理由の一つが社員育成だ。CSR本部コーポレートコミュニケーション部の佐藤佳彦部長代理は「毎回異なる社員に業務を話してもらっている。中高生に説明するにあたり、社員がもう一度自分自身の仕事を見直す機会になっている」と相乗効果を見込む。事業ブランドに「ヒューマン×IT」を掲げる同社。CSRでも〝人づくり〟を中核に活動を進めていく。

18年度は約60校の生徒らを受け入れる

無断転載・複写禁止©㈱日刊工業新聞社